

平成28年 5 月 25 日

各 位

会 社 名 ラクオリア創薬株式会社  
代 表 者 名 代表取締役 谷 直 樹  
(コード番号：4 5 7 9)  
問 合 せ 先 取締役専務執行役員 河田 喜一郎  
(TEL. 052-446-6100)

## アシッドポンプ拮抗薬の日本における特許査定のお知らせ

アシッドポンプ拮抗薬 (Potassium-Competitive Acid Blocker : P-CAB) ※の用途に関して当社が日本で出願しておりました特許 (出願番号2014-217434) は、これまで審査中でありましたが、本日、特許査定※の連絡を受けましたのでお知らせいたします。

今回の特許査定により、当社が創出したテゴプラザン (化合物コード：RQ-00000004、CJヘルスケア株式会社化合物コード：CJ-12420) のみならず全てのアシッドポンプ拮抗薬に対して、食間伝播性収縮運動 (IMC) ※のphase III 収縮の発生によって改善される、胃食道逆流疾患 (GERD) ※、機能的消化不良、腹部膨満感、不快感及び便秘などの消化管運動異常が関与する疾患または症状を改善する消化管機能調整剤、または消化管運動賦活化剤に関する権利が認められました。

アシッドポンプ拮抗薬は、カリウムイオン競合型アシッドブロッカー (P-CAB) とも呼ばれる新しい作用機序の胃酸分泌関連疾患治療剤で、消化器疾患領域で注目を浴びています。アシッドポンプ拮抗薬は、GERD治療薬として現在の第一選択薬であるプロトンポンプ阻害剤 (PPI) とは異なるメカニズムで、PPIよりも速やかにかつ持続的に胃酸分泌を抑制します。さらに、今回の発明により、消化管機能調整剤または消化管運動賦活化剤としての用途が加わりました。したがって、PPIでは十分に症状が改善されなかった場合でも改善効果が期待されます。

当社は平成22年9月にCJ第一製糖株式会社 (現：CJヘルスケア株式会社、本社：韓国ソウル市、社長：郭 達源、以下「CJ社」) とアシッドポンプ拮抗薬について東アジア地域を対象にライセンス契約を締結し、平成26年11月には新たに東南アジアを対象としたライセンス契約を締結しております。当社のアシッドポンプ拮抗薬 (テゴプラザン) は、現在、韓国において、CJ社による第Ⅲ相臨床試験が進められており、当社では米国及び日本における第Ⅰ相臨床試験が終了しております。

当社は、今後も引き続き、アシッドポンプ拮抗薬の知的財産の強化に注力するとともに、グローバルなライセンス活動を継続してまいります。

なお、本特許査定により、平成28年12月期 (平成28年1月1日～平成28年12月31日) の当社業績への影響はございません。

以 上

<ご参考>

**【アシッドポンプ拮抗薬 (Potassium-Competitive Acid Blocker : P-CAB) について】**

アシッドポンプ拮抗薬 (P-CAB) は、胃酸分泌の最終段階を担う $H^+/K^+$ -ATPase (プロトンポンプ) をカリウムイオンと競合的に阻害する、次世代の胃酸分泌抑制剤です。全世界で約2.5兆円に上る胃酸分泌抑制剤の市場で、PPIあるいは $H_2$ ブロッカーに対抗して、大きなマーケットシェアを取ることが期待されます。現在、日本ではボノプラザンが、韓国ではレバプラザンが上市・販売されています。

**【胃食道逆流症 (GERD : gastroesophageal reflux disease) について】**

胃食道逆流症 (GERD) は、食道粘膜障害を有する逆流性食道炎 (RE:reflux esophagitis) と食道粘膜障害の認められない非びらん性胃食道逆流症 (NERD : non-erosive reflux disease) を含みます。

**【食間伝播性収縮運動 (IMC: interdigestive migrating contractions) とは】**

食間伝播性収縮運動とは、正常状態の空腹期に胃から肛門側へと伝播していく、協調的な消化管運動収縮であり、phase I 収縮からphase IV 収縮の4相から成り立ちます。IMCの4相のうち、phase III 収縮は最も強い律動的な収縮運動の相です。

**【特許査定について】**

各国特許庁の審査によって「特許権を与える価値がある出願発明である」と判断された場合に示される評価です。特許査定後に特許料を納付することによって、登録特許となり、該当する国において特許権が発生することになります。